

経験と教訓 防災意識に

御嵩・向陽中 震災で娘亡くした平塚さん講話

二〇一一年の東日本大震災で当時小学六年生の長女を失った平塚真一郎さん＝宮城県東松島市矢本第一中学校長＝のオンライン防災講話が二十一日、御嵩町向陽中学校であった。生徒らは当時の状況に静かに耳を傾け、いつ起こるか分からない自然災害に向けて防災への意識を高めた。

(織田龍穂)



平塚さんの長女・小晴さんは当時、宮城県石巻市の旧大川小学校に通っており、地震後に近くの川をさかのぼってきた津波に襲われて亡くなった。平塚さんは学校安全についての講話などで自身の経験や震災の教訓について伝えており、昨年十一月には岐阜県の教員向け研修の講師も務めた。今回は、防災士の資格も持つ向陽中の大前雅紀教諭が生徒たちにも平塚さんの話を聞かせたいと講話を依頼し、実現した。

全校生徒二百二十四人がオンラインで聴講。コロナにより閉鎖となっている学級の生

平塚さんの話に静かに耳を傾ける生徒ら＝御嵩町向陽中で

「自分ごととして考えて」

徒の多くも自宅から参加した。平塚さんは小晴さんについて、弟や妹を大切にしているお姉ちゃん、学校の先生になるのが夢だったと紹介。「小学校のその先も当たり前にあると思っていたが、未来を奪われてしまった。ニュースで何人亡くなったといわれるが、その数字の影にはいろいろな人の人生があり、その人を大切に思う人たちがたくさんいるということを忘れないでほしい」と訴えた。

未来の命を守るための災害に備える姿勢に関する話もあり、「『まさか』と思うのではなく『もしも自分の住んでいる地域で起こったら』と自分ごととして考えられる人であってほしい」と呼び掛けた。

二年の原和歌子さん(四)は「毎年三月に震災のニュースを見るとその瞬間は心が痛むが、時間がたつとひとごととを考えてしまっていたと思う。これからは自分事として捉えて、自分の大切なものを守れるよう全力で生きていきたい」と話した。